

奈良県 稲田塾

— 蜷川・佐賀で田舎体験 —



今年も、奈良県の学習塾「稲田塾」の塾生約80人が黒潮町を訪れ、7月22日から24日の3日間、町内で田舎生活を体験しました。

稲田塾では、「子どもたちの好奇心を大いに刺激して、知識だけの学力でなく、自分たちで考え行動できる子どもたちを育む」ことを目的に、高知県を4区域に分けた体験合宿を行っています。

昨年は、西部コースの拠点となった蜷川地区での田舎体験が稲田塾の皆さんに大変喜ばれ、そして、地元では民泊を受け入れ子どもたちと交流した地域住民の活力の向上に

も繋がっていました。

昨年に引き続き、蜷川地区では「であいの里蜷川」を拠点に農村民家での宿泊を受け入れ、佐賀地区では今年初めての試みとして、「黒潮一番館」を拠点とした海洋体験や漁村民家の宿泊の受け入れを行いました。

滞在期間中、カツオのタタキづくり体験（黒潮一番館・であいの里蜷川）や田舎寿司づくり体験（であいの里蜷川）、塩づくり体験（ソルトビー）、海釣りや海洋クルージング、ビーチクラフト（遊海）、海遊びや川遊びなど、町内のありとあらゆる田舎体験を存分に満喫した子どもたちにとって、初めての高知で、毎日が驚きや発見、笑顔の絶えない日々となったようです。

また、宿泊を受け入れた家庭からは「初めてこのような受け入れをして、自分の孫のように家での生活を共にした」「帰ってしまうのが本当に寂しい。もっとおってもらいたい」「自分の孫ともすぐに打ち解けて、ええ子で遊んでくれた。来年もまた受け入れをしたい」と充実した3日間を振り返っていました。

今回の稲田塾田舎体験の受け入れでは、黒潮町にある多くの資源を、より有効に生かせる体制が整えられていました。

関係者の方々は、多くの苦勞があった反面、楽しんでくれたこと、感謝されたことへの喜びに加え、今後のさらなる取り組みへの可能性を感じ取ったことと思います。





シーサイドギャラリー 2007夏

7月から8月にかけて、町内各地で夏祭りや盆踊り大会が行われました。
8月15日には「シーサイドギャラリー2007」が行われ、会場となった入野の浜は多くの人で賑わいました。

砂浜投げキッス

(キヌ釣り大会)



町内外から約20人が参加し、大物を目指して健闘しました。結果は、22・8センチメートルのキスを釣り上げた本田伴彦さん(加持)が優勝し、たくさんのキスを釣り上げた人に贈られる大漁賞は、合計13匹で下村昌彦さん(四万十市)が受賞しました。
毎年参加してくれている方、友達や家族連れでチャレンジしてくれた方々、その他にも県外から帰郷しての参加など、いろいろな人がこの大会に参加してくれました。

たくさん釣れた人も、思うように釣れなかった人も景品をゲットし、笑顔で閉会式を迎えました。来年もまた参加してくださいね!



最後はみんなで記念撮影。暑い中、お疲れさまでした!!



僕の魚、一番大きいろうか...

盆踊り大会

祭りを一層盛り上げてくれるのが盆踊りです。今年も踊り子の団体参加が3チームとかなり少ない申し込みでしたが、曲が流れ始めると、特設やぐらを中心に、浴衣や法被姿の子どもから大人までみんなが「大方音頭」「鹿島一声浮流」「東京ばやし」「ばんば踊り」「新佐賀音頭」を輪になって踊り歩きました。

また、太鼓のたたき手として道倉幸彦さん、堀川貴弘さん、小学生の津野紀史くん、林良磨くん、道倉幸柊くん、中学生の澳本幸生くんに参加していただきました。盆踊りの曲に合わせて、約1時間の間、力強い太鼓の音が会場に響き渡っていました。

入野本村婦人会のみなさん



毎年、シーサイドギャラリーの盆踊り大会に参加してくれている『入野本村婦人会』の皆さんです。会長の小橋睦代さんから「地域づくりに何らかの形で力になりたいという使命感で、何年も前からこの盆踊り大会へ参加してきました。でも、今ではもうみんながハマってしまって、毎年楽しんで参加させてもらっています!」と嬉しいコメントをいただきました。みなさん、会場でもひとときわづらっていましたよ!!



今年も大会最後には500発もの花火で盛大に締めくくることができました。各企業や町内地区、関係者のみなさん、たくさんのご協力ありがとうございました。



太鼓のたたき手のみなさん